

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																														
穴吹ビジネス専門学校		昭和63年12月26日		田淵 照之		〒 720-0052 (住所) 広島県福山市東町2-3-6 (電話) 084-931-3325																														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																														
学校法人穴吹学園		昭和25年12月16日		穴吹 薫		〒 720-0052 (住所) 広島県福山市東町2-3-6 (電話) 084-931-3325																														
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
商業実務	商業実務専門課程	動物看護総合学科	令和3(2021)年度	-	平成26(2014)年度																															
学科の目的	動物との関係に不可欠な医療・健康管理・飼育などの知識を総合的に学びながら、実践に役立つ高度の技術の習得と国家資格「愛玩動物看護師」の取得をめざす。																																			
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格:愛玩動物看護師国家資格																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																													
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間 単位	1,380 単位時間 単位	1,110 単位時間 単位	180 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																													
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
180人	110人	0人	0%	3%																																
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 27 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 25 人</p> <p>■就職者数(E) : 25 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 21 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 84 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 93 %</p> <p>■進学者数 : 1 人</p> <p>■その他</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 山口大学共同獣医学部 動物医療センター、クローバー動物病院、アイビー動物クリニック、笠岡ペットクリニック、ひらた動物病院、動物医療センター ALOHA、せらのば動物病院、みやげ動物病院、備後ペットクリニック、(株)栗馬クラブクレイン、中四国動物眼科、東原動物病院、ハーツアニマルクリニック 他</p>																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																			
当該学科のホームページURL	https://web.anabuki-net.ne.jp/abf/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,670 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>210 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,310 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>180 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>150 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>単位</td></tr> </table>								総授業時数	2,670 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	210 単位時間	うち必修授業時数	2,310 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した演習の単位数	単位	うち必修単位数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位
総授業時数	2,670 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	210 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,310 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	180 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	150 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																			
総単位数	0 単位																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した演習の単位数	単位																																			
うち必修単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位																																			
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	単位																																			
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	4人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																			
計	4人																																			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

常に業界の最新の技術動向に対応できるスキルを習得できるよう、企業等の意見、情報収集を定期的に行い、教材や授業方法等について工夫・改善を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教務部長を教育課程編成委員長とし、委員会を招集し、その議長となり、委員会を代表する。教育課程編成委員は、自由な立場で学科、学校の教育活動に対する提言、意見を述べる事ができる。教育課程編成委員会でまとめられた答申は、教務部への提言、検討を経て、設備投資や新規採用が伴う案件は理事会で諮られ、審議され、採決されたものは改善活動へとつながる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年6月1日現在

名前	所属	任期	種別
糸井 欽司	ジャパンケネルクラブ大阪審査事業委員会 副会長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
今井 奈津美	株式会社サンエスホールディングス 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
大西 修 冊	株式会社ロポロデザインクリエーション 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
大西 大輔	MICTコンサルティング株式会社 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
岡本 輝夫	福山商工会議所 事務局次長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
小川 晃由	アドバンスシステム株式会社 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
沖浦 輝彦	株式会社MOTORS 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
熊野 貴浩	株式会社MCAT 放送制作部係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
高橋 伸幸	ナッツデザインスタジオ 代表	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
高比良 香織	NHN Studio comico 株式会社 第1編集部 部長／編集長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
瀧下 直樹	株式会社ジーン 香川スタジオ室長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
中村 幸生	医療法人幸美会 なかむら歯科クリニック 院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
檜垣 幸次	三宅動物病院 副院長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
増成 隆志	株式会社MOTORS 取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
本沖 秀幸	株式会社外林 係長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
田淵 照之	穴吹ビジネス専門学校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
尾崎 隆一	穴吹ビジネス専門学校 副校長	令和6年6月1日～令和7年3月31日(10か月)	—
高橋 忍	穴吹ビジネス専門学校 教務部 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
土居 正明	穴吹ビジネス専門学校 教務部 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
田上 真紀	穴吹ビジネス専門学校 教務部 課長代理	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
矢吹 宴	穴吹ビジネス専門学校 教務部 主任	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—
大元 元巳	穴吹ビジネス専門学校 教務部	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回を必須とし、その他、必要に応じて臨時に開催する。開催時期:8月、2月。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年9月20日 15:30~17:00

第2回 令和6年3月27日 13:00~14:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

実施カリキュラム、教育内容について、業界の動向や動物看護師に求められるニーズを鑑みた内容であるかどうか、また、業界に求められる人材像に基づく、新人動物看護師に対する課題と専門分野教育に関することについて意見交換を行った。愛玩動物看護師コアカリキュラム以外の学校独自のカリキュラムについて、特色を出すように検討していく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等から講師派遣や専門科目における教授内容や授業方法について助言、指導を受け、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

動物内科看護学実習：注射の方法やカルテの記入について実習にて実施。講師は獣医師と愛玩動物看護師。レポート提出により学習成果の評価を行う

動物看護総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：インターンシップの受入を複数の動物病院にて実施。学生の評価を受入動物病院により実施

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
動物内科看護学実習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	あべ動物病院
動物看護総合実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	3. 【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	ふじい動物病院 他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修・人材育成規定に定められている指導力アップのための研修と専門的・技術的なスキルを習得する研修を、それぞれの現状の修得状況に合わせ、年度当初に立てる研修計画に基づき予算化し、組織的、計画的に遂行していく。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第44回動物臨床医学会年次大会参加	連携企業等:	動物臨床医学研究所
期間:	令和5年11月18日(土)11時～19時、11月19日(日)9時～17時	対象:	学科担当教員
内容	動物臨床についての最新の診療や動物看護についての学会に参加		
研修名:	福山市小動物臨床研究会画像診断セミナー	連携企業等:	福山市小動物臨床研究会
期間:	令和6年2月10日(土)20時30分～23時	対象:	学科担当教員
内容	胸部レントゲンセミナー 基本を押さえ難解症例を紐解く		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	Microsoft Education EXPO 2023 ～これからの教育のかたち～	連携企業等:	日本マイクロソフト社
期間:	令和5年6月30日(金)16時～18時	対象:	学科担当教員
内容	AIを用いた授業運営について、実際の事例の紹介など		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	福山市小動物臨床研究会動物看護師向けセミナー	連携企業等:	福山市小動物臨床研究会
期間:	令和6年6月19日(水)13時30分～16時	対象:	学科担当教員
内容	動物看護の必須スキルである保定について、日本での第一人者の講師からの講義を受講		
研修名:	動物看護教員向けセミナー	連携企業等:	(一社)全国動物専門学校協会
期間:	令和6年8月9日(金)12時～15時30分	対象:	学科担当教員
内容	愛玩動物看護師が知っておくべき採血法と愛護適正飼養分野の科目を理解する		
研修名:	福山市小動物臨床研究会獣医師向けセミナー	連携企業等:	福山市小動物臨床研究会
期間:	令和6年6月19日(水)20時30分～23時	対象:	学科担当教員
内容	生涯キャリアとしての愛玩動物看護師(国家資格化された愛玩動物看護師の今後の展望)		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ICT活用中級研修	連携企業等:	イーディーエル株式会社
期間:	令和6年4月3日 13時30分～16時30分	対象:	学科担当教員
内容	ICT活用中級研修を活用した授業運営についての講義と演習		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ① 関係者ならではの視点で具象的かつ実践的な評価を受ける
- ② 自己点検評価の適性化、妥当性を客観的に評価する
- ③ 結果として、職業に必要な実践的かつ、専門的な能力がより習得できる改善計画を立案し、PDCAサイクルを回し続ける

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学生等に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 教職員に対して教育理念等を明文化し、周知徹底を図っているか 学外に対して教育理念等を明文化し、公表しているか 各就業期間における教育目的、教育目標、教育計画が文書化され提示されているか
(2) 学校運営	理事会が定期的開催されているか 評議員会が定期的開催されているか 運営会議が定期的開催されているか 人事規程が文書化されているか 決裁規程が文書化されているか 個人情報保護規定が文書化されているか
(3) 教育活動	学校の年間スケジュールはあるか シラバスあるいは講義要項等が作成されているか 学生によるアンケート等にて授業評価が定期的に行われているか 結果に基づく教育面接、授業観察を実施しているか 結果に基づく教育のレポート、改善計画等が作成されているか 授業改善のための組織的な取り組みが行われているか キャリア教育などが行われているか
(4) 学修成果	学生の就職に対する目標を設定したか 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか 退学率の目標を設定しているか 卒業生の進路、就職先等を公表しているか
(5) 学生支援	進路、就職に関する支援体制は整備されているか 学生相談に関する支援体制は整備されているか 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか 課外活動に対する支援体制は整備されているか 卒業生への支援体制はあるか
(6) 教育環境	学校生活におけるリスクマネジメントとして保険に加入しているか 防災・防犯設備が整備、点検されているか 施設、設備の保守・点検が定期的に行われているか
(7) 学生の受入れ募集	学校案内等には育成人材像が明示されているか 学校案内等には目指す資格・検定・コンペが明示されているか 学校案内等には学費、教材費等が明示されているか 入学に関する問い合わせ等には適切に対応できる体制ができているか
(8) 財務	年度予算、中期計画は策定されているか 予算は計画に従って妥当に執行され、定期的に確認されているか 会計監査体制のルールが明確化されているか 会計監査の結果報告が文書等で明確化されているか
(9) 法令等の遵守	自己点検・評価を適正に実施運用するためのルールが文書化されているか 自己点検・評価報告書があるか 自己点検・評価報告書が公表されているか
(10) 社会貢献・地域貢献	○○○○○
(11) 国際交流	○○○○○

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

以下の項目について、資料を基に状況を説明し、各委員よりいただいた意見を参考に改善を図る。
学生動向、自己評価報告書、保護者アンケート、検定取得状況、内定状況、その他

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
阿部 晋士	あべ動物病院	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員委員
石井 康夫	福山市医師会	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員委員
高橋 宏之	ツー・プライ株式会社	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	企業等委員委員
田島 建彦	元高等学校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	元高等学校関係委員
天野 博士		令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表委員
曾根 大地		令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表委員
森島 裕策		令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生代表委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・本報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-net.ne.jp/data/>

公表時期: 2024年3月15日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育に関わる情報について原則、公開する。
定期的に更新し、最新の情報を提供するよう努める。
情報の提供に際してはインターネットでの提供を基本とする。
統計的な情報については算定方法など根拠となる情報も同時に提供する。
個人情報の扱いに留意し、特定の個人が特定できない情報として提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校名、所在地、学校の沿革、歴史 学校の教育、人材養成の目標及び教育指導計画 経営方針
(2)各学科等の教育	数、カリキュラム、時間割、年間の授業計画 進級・卒業の要件 資格取得、検定試験合格等の実績
(3)教職員	教職員数 教職員の組織、教員の専門性
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み状況 実習・実技等の取り組み状況 就学支援等への取り組み支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況 課外活動(部活動、サークル活動、ボランティア活動)
(6)学生の生活支援	学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い 活用できる経済的支援措置の内容等
(8)学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己評価、学校関係評価の結果 評価結果を踏まえた改善方法
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://web.anabuki-net.ne.jp/data/>

公表時期: 2024年5月1日

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 動物看護総合学科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉(アニマルウェルフェア)について学ぶ。	2後	30	2	○			○		○		
2	○		動物形態機能学Ⅰ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1前	60	4	○			○			○	
3	○		動物形態機能学Ⅱ	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1後	60	4	○			○			○	
4	○		動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を習得する。	3前	30	2	○			○			○	
5	○		動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1前	30	2	○			○			○	
6	○		動物栄養学Ⅰ	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	1後	30	2	○			○			○	
7	○		動物栄養学Ⅱ	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを修得する。	3後	30	2	○			○			○	
8	○		比較動物学Ⅰ	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。	2後	30	2	○			○			○	
9	○		比較動物学Ⅱ	飼育動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼育管理法、動物実験との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物について学ぶ。	3前	30	2	○			○			○	
10	○		動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	3後	15	1	○			○			○	
11	○		動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護及び適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	3後	15	1	○			○			○	

12	○		動物看護学概論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。	1前	30	2	○			○			○
13	○		動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	2後	30	2	○			○			○
14	○		動物薬理学Ⅰ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3前	30	2	○			○			○
15	○		動物薬理学Ⅱ	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	3後	30	2	○			○			○
16	○		動物感染症学Ⅰ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1前	30	2	○			○			○
17	○		動物感染症学Ⅱ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1後	30	2	○			○			○
18	○		動物感染症学Ⅲ	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎について理解する。感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	2前	30	2	○			○			○
19	○		公衆衛生学Ⅰ	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	2後	30	2	○			○			○
20	○		公衆衛生学Ⅱ	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	3前	30	2	○			○			○
21	○		動物内科看護学Ⅰ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1前	30	2	○			○			○
22	○		動物内科看護学Ⅱ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1後	30	2	○			○			○
23	○		動物内科看護学Ⅲ	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	3前	30	2	○			○			○
24	○		動物外科看護学Ⅰ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2前	30	2	○			○			○
25	○		動物外科看護学Ⅱ	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2後	30	2	○			○			○
26	○		動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	3後	30	2	○			○			○

27	○		動物臨床看護学各論Ⅰ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2前	30	2	○			○	○		
28	○		動物臨床看護学各論Ⅱ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2後	30	2	○			○	○		
29	○		動物臨床看護学各論Ⅲ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	3前	30	2	○			○	○		
30	○		動物臨床看護学各論Ⅳ	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害を持つ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	3後	30	2	○			○	○		
31	○		動物臨床検査学Ⅰ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	2前	30	2	○			○	○		
32	○		動物臨床検査学Ⅱ	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	2後	30	2	○			○	○		
33	○		動物医療コミュニケーション	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について理解する。	2後	30	2	○			○	○		
34	○		愛玩動物学Ⅰ	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1前	30	2	○			○		○	
35	○		愛玩動物学Ⅱ	愛玩動物の歴史や品種、使役動物の歴史や役割、適切な飼育管理方法について理解する。	1後	30	2	○			○		○	
36	○		人と動物の関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的及び社会的側面から、その実態と課題等を含めて理解する。	3前	30	2	○			○		○	
37	○		適正飼養指導論Ⅰ	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3前	30	2	○			○		○	
38	○		適正飼養指導論Ⅱ	愛玩動物の効用や飼育目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の危機管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3後	30	2	○			○		○	
39	○		動物生活環境学	ペットに関わる施設の整備及び管理運営の方法、リスクアセスメントやマナーについて学び、人とペットとの共生のための生活環境のあり方を理解する。	2前	30	2	○			○		○	
40	○		ペット関連産業概論	ペット飼育のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	2後	30	2	○			○		○	
41	○		動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	1後	60	2	○			○		○	

42	○		動物内科看護学実習Ⅰ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1前	30	1		○	○	○	○	○
43	○		動物内科看護学実習Ⅱ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1後	30	1		○	○	○	○	○
44	○		動物内科看護学実習Ⅲ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3前	30	1		○	○	○	○	○
45	○		動物内科看護学実習Ⅳ	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3後	60	2		○	○	○	○	○
46	○		動物臨床検査学実習Ⅰ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2前	30	1		○	○	○		
47	○		動物臨床検査学実習Ⅱ	検体検査に必要な手技や臓器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	30	1		○	○	○		
48	○		動物外科看護学実習Ⅰ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2前	30	1		○	○	○		
49	○		動物外科看護学実習Ⅱ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2後	30	1		○	○	○		
50	○		動物外科看護学実習Ⅲ	手術準備や術中・術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など、動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3前	30	1		○	○	○		
51	○		動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	3後	60	2		○	○	○		
52	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅰ	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	1後	30	1		○	○	○		
53	○		動物愛護・適正飼養実習Ⅱ	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を修得する。	2前	30	1		○	○	○		
54	○		動物看護総合実習Ⅰ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	1前	30	1		○	○	○	○	○
55	○		動物看護総合実習Ⅱ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	1後	30	1		○	○	○	○	○
56	○		動物看護総合実習Ⅲ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	2後	60	2		○	○	○	○	○

57	○		動物看護総合 実習Ⅳ	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	3 前	60	2		○	○	○	○	○
58	○		トリミング実習 Ⅰ	トリミング技術の向上。サロントリマー3級(全国動物専門学校協会)の合格。	1 前	60	2		○		○	○	○
59	○		トリミング実習 Ⅱ	トリミング技術の向上。サロントリマー3級(全国動物専門学校協会)の合格。	1 後	60	2		○		○	○	
60	○		トリミング実習 Ⅲ	トリミング技術の向上。サロントリマー3級(全国動物専門学校協会)の合格。	2 前	60	2		○		○	○	
61	○		ペット美容学Ⅰ	ペット美容に関して基礎的な知識を身につけ、トリミング技術の向上と、トリミング学科試験の対策をする。	1 後	30	2	○			○	○	
62	○		ペット美容学Ⅱ	ペット美容に関して基礎的な知識を身につけ、トリミング技術の向上と、トリミング学科試験の対策をする。	2 前	30	2	○			○	○	
63	○		犬種標準学	様々な犬の種類とその特徴について学習する。	1 前	30	2	○			○	○	
64		○	動物看護技術 実習Ⅰ	実習・研究を通じて動物病院で必要な動物看護スキルを修得する。	2 前	30	1		○		○	○	
65		○	動物看護技術 実習Ⅱ	実習・研究を通じて動物病院で必要な動物看護スキルを修得する。	3 前	90	3		○		○	○	
66		○	動物看護技術 実習Ⅲ	実習・研究を通じて動物病院で必要な動物看護スキルを修得する。	3 後	60	2		○		○	○	
67		○	動物介在活動 学Ⅰ	動物介在活動についての知識を身につけ、動物介在活動を企画、実施する。	3 前	30	2		○		○	○	○
68		○	動物介在活動 学Ⅱ	動物介在活動についての知識を身につけ、動物介在活動を企画、実施する。	3 後	30	2		○		○	○	○
69		○	福祉概論	人間と動物の福祉知識を身につけ、人と動物の共生のあり方等を理解する。	1 後	30	2	○			○	○	○
70		○	人間心理学	人間心理学の基本を身につけ、動物介在活動に活かす。	2 前	30	2	○			○	○	○
71		○	AAA実習Ⅰ	学校飼育犬とともに老人福祉施設等を訪問し、動物の人に与える効果を学習する。	3 前	30	1		○		○	○	

72	○	AAA実習Ⅱ	学校飼育犬とともに老人福祉施設等を訪問し、動物の人に与える効果を学習する。	3 後	30	1	○	○	○							
73	○	PC実習	WordとExcelの基礎知識、技能の習得、及びワープロ検定合格。	1 前	30	1	○	○							○	
74	○	社会人基礎講座Ⅰ	就職活動準備（目標 自己分析 企業研究 コミュニケーション 教養 一般常識 マナー 他）	2 後	30	2	○	○	○							
75	○	社会人基礎講座Ⅱ	就職活動準備（目標 自己分析 企業研究 コミュニケーション 教養 一般常識 マナー 他）	3 前	30	2	○	○	○							
76	○	サービス接遇	サービス接遇検定3級の合格。接客業に必要な基本的な知識・技能を習得。	1 前	30	2	○	○							○	
77	○	ビジネス文書	ビジネス文書検定3級の合格。文書作成技能の基本を身につけ、普通の文書を正しく理解し、作成する。	2 後	30	2	○	○							○	
合計				77 科目			2,490 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 必修科目2,310単位時間、選択必修科目180単位時間を修得する		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 選択必修科目については、専攻ごとに定められた科目の内から選択する（その選択肢として上記選択必修科目が設けてある）ただし、専攻にかかわらず企業等連携科目を1科目以上履修するものとする		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。